

教育課程

健康スポーツ教育学部

1. 教育課程（カリキュラム）

健康スポーツ教育学部（以下、「本学部」という）は、1 学科構成となっています。本学で開講する授業科目及び単位数は、この冊子に掲載しているカリキュラムに示す通りです。

カリキュラムは、系統的な教育を提供するという観点から構成されています。履修系統図*（表 1-1）では、分野ごとの科目相互の関わりを見ることができます。本学で開講される科目の授業内容は、「シラバス†」にまとめられています。各科目のシラバス内容をよく確認して履修科目を選択し、受講してください。

学部名	学科名
健康スポーツ教育学部 The Faculty of Health and Sports Education	健康スポーツ教育学科 The Department of Health and Sports Education

1) 進級要件単位、卒業要件単位、学位

本学部の各年次終了時の進級要件単位数および卒業要件単位数は下表の通りです。また、卒業の認定を受けた者には、下表の学位を授与します。

科目の区分	進級要件単位			卒業要件単位	学 位
	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時		
全学共通科目	-	-	卒業要件科目 90 単位以上	必修科目を含む 124 単位以上	学士 (健康スポーツ教育学)
学科開講科目	-	-			

2) GPA (Grade Point Average) 制度

本学部では、全学における運用（詳細については、この冊子の「GPA 制度」を参照）のほかに、以下のような目的でも GPA を参考にします。履修を取り止めた科目の履修取り消しを怠ると、GPA を極端に下げることになります。履修登録後は必ず確認を行い、必要があれば履修登録変更期間に修正や削除等の対応をしてください。

- ・ 個別の学習指導への活用
- ・ 履修登録上限単位数設定の基準
- ・ 就職活動時の大学推薦の基準
- ・ 卒業時の総代および各種表彰者の選抜の基準 等

3) 履修登録上限単位（CAP 制度）

本学部の各年次の履修登録上限単位数（CAP）は下表の通りです。各年次に「不可」または「不認定」となった科目の単位数を含めた履修登録上限単位数となっています。ただし、2 年次以降は成績優秀者（学部・学科が設定する GPA 基準値を満たした場合等）に限り、CAP を超えて履修することができます。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
49 単位	49 単位	49 単位	49 単位

* 「履修系統図」とは

学生が身につけるべき知識・能力と授業科目との間の対応関係を示し、体系的な履修を促す体系図を意味します。

† 「シラバス」とは

各授業科目の詳細な授業計画。大学の授業名、担当教員名、授業目的、各回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学修等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修要件等が記されています。学生が各授業科目の準備学修等を進めたり、講義の履修を決める際の資料として閲覧したりして活用されます。本学の場合は、教務システムにすべての授業科目のシラバスが公開されています。

4) 科目の区分

○教育内容による区分

全学共通科目	建学の精神に基づく宗教的情操教育を通して豊かな人間性と感性を育み、社会、自然、文化および社会的・自然的多様性などへの理解を深め、思考力、情報活用力、コミュニケーション力を身につけることを目的としている科目。「大学で学ぶための入門科目群」、「人生に役立つ知力・体力を育てる科目群」、「新しい時代を生きるための科目群」、「社会人として仕事で役に立つ科目群」に区分されています。全学共通科目は、学部・学科に関係なく、大学全体で共通となっています。
学科開講科目	教育、健康、スポーツに関する専門的知識・技術を系統的に学ぶとともに、地域における学修を通して課題解決できる実践力を身につけ、生涯にわたって自己の成長を促すことを目的としている科目。

○履修条件に関する区分

必修科目	単位を必ず修得しなければならない科目。
選択科目	自由に選択し履修することができる科目。
選択必修科目	複数の科目の中から自由に科目を選択し、その中で一定数以上の単位を必ず修得しなければならない科目。科目一覧の「最低修得単位数」欄に「～単位以上」と表記がある場合、その区分等において、卒業までに選択履修し、必要な単位数を修得する必要があります。

5) 授業の履修上の注意点（この冊子の「Ⅱ. 学習」も合わせて参照）

- ・授業の履修は、学生便覧、シラバス、履修登録上限単位数、進級要件単位数（1～3 年次）、卒業要件単位数（特に、4 年次）、免許・資格の取得要件、現在の修得単位数や成績を事前に照合し、個人の責任で確実に行うこと。特に、4 年次（卒業学年）は卒業要件を満たしているかよく確認し、単位に余裕を持って履修すること。
- ・履修登録期間中に履修登録をしていない科目は、単位を修得することはできません。
- ・履修登録オリエンテーションは、履修登録方法の説明のほか、各学期の時間割や教室、教科書販売についても連絡するので、必ず出席すること。
- ・授業で使用する教科書は、各学期の指定の期間に学内販売されますので、授業開始前（入荷の状況によっては授業開始後になる場合もある）に教科書申込の手順に従って各自購入すること。
- ・開講期は変更となる場合もありますので、時間割や教務システムで履修前に確認すること。
- ・各種実習実施に伴い休講になる科目がある場合は別途補講が行われます。
- ・本学には、英語外部試験等による単位認定制度があります。詳細については、この冊子の「英語外部試験等による単位認定制度」についてのページを確認してください。
- ・「ひとの心を動かすひとになる講座」については、本学が教育上必要と認め指定した講座等を在学期間中に 15 回受講することで 1 単位が認定されます。

【重要①】4 年間の学修を円滑に行うための大切なポイント

授業全般や免許・資格に関する重要な連絡や事務局からの伝達・呼び出し、また、緊急時の連絡等は教務システムや学部・学科専用の掲示板で行っています。普段から確認する習慣を身に付けましょう。

- 大学から連絡がある場合、教務システム（学籍情報登録及びメール設定）に登録されている電話番号やメールアドレス等が使用されます。そのため、教務システムに登録している連絡先が変更となった場合は、利用ガイド等を参照し、速やかに変更すること。
- 大学からの電話連絡は「086-436-XXXX」、「086-523-XXXX」から行いますので、必ず出るようにしてください。
- 「ksu.ac.jp」は大学からのメール連絡なので必ず受信し確認すること。携帯電話会社によってはドメイン指定受信設定が必要となる場合もあるので、各社の設定方法に従って、受信できるように設定すること。

【重要②】教員や大学への連絡方法とマナー

大学生活を送る中で、教員に授業や進路等について相談するためのアポイントメント（面会の約束）を取ったり、体調不良や公共交通機関の遅延によって教員や大学へ連絡をしたりしなければならない時があります。そのような時には、以下のようなマナーを守り、連絡をするようにしましょう。

●教員への連絡

原則として、教員のメールアドレスにメールを送信します。教員のメールアドレスは、シラバスに掲載されています。メール作成時には、「件名」欄には簡潔に用件を入力し、「本文」欄には（1）宛て先（「〇〇先生」）、（2）連絡内容、（3）署名（「学部・学科・学年・学籍番号・氏名」）の順で入力します。

●大学への連絡

代表番号 086-523-0888 に電話をかけます。代表番号からアドバイザー教員等の各研究室に電話をつないでもらうことも可能です。電話をかける時には、つながったらまず挨拶をし、自分の名前を名乗ってから、用件を伝えます。

- 緊急時を除いて、休日や夜間の連絡は避けるようにしましょう。

表1-1 履修系統図 (2025年度入学生用)

学年		1年次		2年次		3年次		4年次	
期		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学共通科目	学士課程教育 導入期								
	大学で学ぶための 入門科目群	創立者松田藤子の志 キャンパスライフデザインⅠ ITリテラシー基礎		創立者松田藤子の教え キャンパスライフデザインⅡ ITリテラシー基礎					
		ラーニングスキルズ							
	人生に役立つ知力・ 体力を育てる科目群	日本憲法 Basic English A 健康スポーツ マリンスポーツ	心理学 Basic English B ウィンタースポーツ	Advanced English A	キャリアライフデザイン Advanced English B	健康科学			
	新しい時代を生きる ための科目群	英会話 イタリア語会話 中国語会話	フランス語会話 ドイツ語会話 中国語会話	ひとの心を動かすひとになる講座		実践英会話			
		くらしき学講座 コミュニケーションデザイン				若衆実践演習	データサイエンス		
学科開講科目	社会人として仕事で 役に立つ科目群			インターンシップ		大東仏教から学ぶ人間形成Ⅰ	大東仏教から学ぶ人間形成Ⅱ		仕事で役立つパソコン活用法
						ワークライフデザイン 社会人マナー講座 新聞活用教育(NIE) 英語資格・検定セミナー			
	教育の基礎的理論 に関する科目群								
		教職キャリアⅠ		教職キャリアⅡ		教職キャリアⅢ		教職キャリアⅣ	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目群	生活Ⅰ 音楽基礎理論 ピアノ演習Ⅰ 家庭Ⅰ 体育Ⅰ	ピアノ演習Ⅱ 体育Ⅱ 武道演習Ⅰ	教育心理学 教育課程総論 特別支援教育総論	教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育相談の理論と方法	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ
	教育の専門性 を高める科目群	生活Ⅰ 音楽基礎理論 ピアノ演習Ⅰ 家庭Ⅰ 体育Ⅰ	ピアノ演習Ⅱ 体育Ⅱ 武道演習Ⅰ	教育心理学 教育課程総論 特別支援教育総論	教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育相談の理論と方法	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ
学科開講科目	教育の方法・指導法 を学ぶ科目群	生活Ⅰ 音楽基礎理論 ピアノ演習Ⅰ 家庭Ⅰ 体育Ⅰ	ピアノ演習Ⅱ 体育Ⅱ 武道演習Ⅰ	教育心理学 教育課程総論 特別支援教育総論	教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育相談の理論と方法	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ
	健康・スポーツを科学的 に学ぶ科目群	生活Ⅰ 音楽基礎理論 ピアノ演習Ⅰ 家庭Ⅰ 体育Ⅰ	ピアノ演習Ⅱ 体育Ⅱ 武道演習Ⅰ	教育心理学 教育課程総論 特別支援教育総論	教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育相談の理論と方法	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ
	教育力を統合する科目群	生活Ⅰ 音楽基礎理論 ピアノ演習Ⅰ 家庭Ⅰ 体育Ⅰ	ピアノ演習Ⅱ 体育Ⅱ 武道演習Ⅰ	教育心理学 教育課程総論 特別支援教育総論	教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育相談の理論と方法	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ
		生活Ⅰ 音楽基礎理論 ピアノ演習Ⅰ 家庭Ⅰ 体育Ⅰ	ピアノ演習Ⅱ 体育Ⅱ 武道演習Ⅰ	教育心理学 教育課程総論 特別支援教育総論	教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育相談の理論と方法	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ
		生活Ⅰ 音楽基礎理論 ピアノ演習Ⅰ 家庭Ⅰ 体育Ⅰ	ピアノ演習Ⅱ 体育Ⅱ 武道演習Ⅰ	教育心理学 教育課程総論 特別支援教育総論	教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育相談の理論と方法	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ
		生活Ⅰ 音楽基礎理論 ピアノ演習Ⅰ 家庭Ⅰ 体育Ⅰ	ピアノ演習Ⅱ 体育Ⅱ 武道演習Ⅰ	教育心理学 教育課程総論 特別支援教育総論	教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。) 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育相談の理論と方法	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ	教職キャリアⅢ	教職キャリアⅣ

※科目名称・開講時期等が変更となる場合があります。

6) 科目一覧の見方について

表 1-2 の各科目一覧の見出しは、左から「区分」「授業科目名」「授業形態」「単位数」「開講学年（授業時数）」「卒業要件」「免許・資格取得要件」「地域科目」「備考」となっています。それぞれの表の見方は下表の通りです。

「卒業要件」「免許・資格取得要件」については、記号の意味を正確に理解し、履修を確実に進めていく必要があります。「最低修得単位数」欄には、知識・技能のバランスを図りながら学修を進めてもらうため、区分や科目範囲において卒業までに修得する必要がある単位数を表記しています。

○各種表記・記号に関する補足説明

欄	表記・記号	説 明
開講学年 (授業時数)	 *塗り潰し	授業科目が開講される学年および時期 ※前期・後期にわたる科目については、通年科目 ※複数の学年にわたる科目については、塗り潰された範囲の任意の学年で履修することが可能な科目
	8, 15 等の数字	各授業科目の開講授業時間数
	..	任意の学年で履修可能な科目または授業時間数に関係なく、定められた学修時間を行う科目
卒業要件／免許・資格取得要件	◎	卒業および各免許・資格取得のための必修科目
	○	卒業および各免許・資格取得のための選択必修科目
	△	各免許・資格取得のための選択科目
地域科目		くらしき若衆育成プログラムのための科目 本学には、地域のまちづくりリーダーを目指すプログラムがあります。詳細については、この冊子の「『くらしき若衆』育成プログラム」についてのページを確認してください。

○免許・資格に関する略記の説明

略記	説 明
【中・高】	中学校教諭一種免許状（保健体育）・高等学校教諭一種免許状（保健体育）
【小】	小学校教諭一種免許状
【健】	健康運動実践指導者受験資格
【共】	スポーツ指導者資格「共通科目Ⅱコース」受験資格
【ジ】	ジュニアスポーツ指導員受験資格
【ス】	スポーツプログラマー受験資格
【ア】	アシスタントマネジャー受験資格

表 1-2 科目一覽 (2025 年度入学者用)

◎：卒業および各免許・資格取得のための必修科目
○：卒業および各免許・資格取得のための選択必修科目
△：各免許・資格取得のための選択科目
□：くらしき若衆育成プログラムのための科目

【中・高】中学校教諭一種免許状（保健体育）・高等学校教諭一種免許状（保健体育）
 【小】小学校教諭一種免許状
 【健】健康運動実践指導者受験資格
 【共】スポーツ指導者資格「共通科目Ⅱコース」受験資格
 【ジ】ジュニアスポーツ指導員受験資格
 【ス】スポーツプログラマー受験資格
 【ア】アシスタントマネジャー受験資格

区分		授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講学年（授業時数）								卒業要件 必修 単位数 最低修得	免許・資格取得要件							地域科目	備 考				
					1 年		2 年		3 年		4 年			【中・高】	【小】	【健】	【共】	【ジ】	【ス】	【ア】						
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
全 学 共 通 科 目	大学で学ぶための 入門科目群	創立者松田藤子の志	講義	1	8						◎	8 単位以上														
		創立者松田藤子の教え	講義	1	8						◎															
		キャンパスライフデザインⅠ	演習	2	15						◎															
		キャンパスライフデザインⅡ	演習	2	15						◎															
		ITリテラシー基礎	演習	2	15						◎															
		ラーニングスキルズ	演習	1	8						◎															
	人生に役立つ知力群・ 育てる科目群	日本国憲法	講義	2	15							6 単位以上	◎	◎												
		心理学	講義	2	15						◎															
		キャリアライフデザイン	演習	1		8																				
		Basic English A	演習	1	15						◎			◎	◎											
		Basic English B	演習	1	15						◎			◎	◎											
		Advanced English A	演習	1		15																			「英語外部試験等による単位認定制度」対象科目	
		Advanced English B	演習	1			15				◎															
		健康科学	講義	1				8			◎			◎	◎		◎									
	健康スポーツ	健康スポーツ	実技	1	15							○	◎	◎		◎										
		マリンスポーツ	実技	1	集中																				卒業要件として、3つのスポーツ科目の中から、1単位以上を修得すること	
	ウィンタースポーツ	実技	1	集中																						
	ひとの心を動かすひとになる講座	講義	1																						本学が指定した講演等15回の聴講で単位認定（CAP対象外科目）	
	新しい時代を生きるための 科目群	英会話	演習	1	15						◎	2 単位以上														
		フランス語会話	演習	1	15																					
		イタリア語会話	演習	1	15																					
		ドイツ語会話	演習	1	15																					
		中国語会話	演習	1	15																					
		実践英会話	演習	1					15																	
		くらしき学講座	講義	1	8						◎															
		コミュニティライフデザイン	演習	1	8																					
	若衆実践演習	演習	2					15				1 単位以上														
データサイエンス		演習	2					15																		
社会人として仕事で 役に立つ科目群	大乗仏教から学ぶ人間形成Ⅰ	講義	1				8			◎	3 単位以上															
	大乗仏教から学ぶ人間形成Ⅱ	講義	1					8		◎																
	ワークライフデザイン	演習	2					15																		
	社会人マナー講座	演習	1					8集中																		
	新聞活用教育（NIE）	演習	1					8集中																		
	英語資格・検定セミナー	演習	2					15																	「英語外部試験等による単位認定制度」対象科目	
	インターンシップ	演習	2				集中																			
	実践コミュニケーション	演習	2						15																	
	仕事で役立つパソコン活用法	演習	2							15																
										15																

区分		授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講学年（授業時数）								卒業要件 必修 単位数 最低修得	免許・資格取得要件						地域科目	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					1 年		2 年		3 年		4 年			【中・高】	【小】	【健】	【共】	【ジ】	【ス】			【ア】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
学 科 開 講 科 目	キャリア教育に 関する科目群	教職キャリアⅠ	講義	2	15							◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

区分		授 業 科 目 名	授業形態	単位数	開講学年（授業時数）								卒業要件		免許・資格取得要件							地域科目	備 考	
					1 年		2 年		3 年		4 年		必修	最低修得単位数	【中・高】	【小】	【健】	【共】	【ジ】	【ス】	【ア】			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
学 科 間 講 義 目	健康・スポーツを科学的に学ぶ科目群	体育原理	講義	2		15							◎			◎								
		体育心理学	講義	2							15			◎			◎							
		体育経営管理学	講義	2							15				◎					◎				
		体育社会学	講義	2			15						◎			◎				◎				
		体育史	講義	2							15			◎										
		運動方法学	講義	2				15					◎			◎		◎	◎					
		健康運動実践演習	演習	1			8									◎		◎	◎					
		スポーツ栄養学	講義	2		15										◎		◎	◎					
		運動生理学	講義	2		15							◎			◎		◎	◎					
		バイオメカニクス	講義	2							15													
		測定評価	講義	2							15													
		公衆衛生学	講義	2		15							◎			◎								
	解剖生理学	講義	2		15										◎									
	スポーツ医学	講義	2							15							◎	◎						
	教育力を統合する科目群	初等教育実習（事前事後指導含む。）	実習	5					--					◎										
		中等教育実習（事前事後指導含む。）	実習	5						--				◎										
教職実践演習		演習	2							15			◎	◎										
ゼミナール		演習	2					15				◎												
卒業研究		演習	4						--			◎												
合 計 （卒業要件）												124単位以上												

2. 就職・進路指導

学生一人ひとりの志望進路・就職先に応じて、学生支援室やアドバイザー担当教員、ゼミナール担当教員が中心となり、履歴書の添削、筆記試験や面接試験、実技試験の対策等の就職・進路指導が行われます。就職活動は、1・2 年次に志望する進路を明確にし、3 年次から計画的に取り組み、準備を進めていくことが求められます。就職活動に必要な情報収集の方法として、「求人検索 NAVI」システムや3 年次配布の「就職の手引き」を積極的に活用してください。

1) ボランティア活動について

本学部では、主体的・積極的・継続的にボランティア活動に参加することを推奨しています。

地域の教育施設やスポーツ施設等において、教員や職員と関わり合いながら、児童生徒や施設利用者等への支援を行うボランティア活動に取り組むことで、コミュニケーション力や協調性、社会性だけでなく、現場感覚を持った実践力を身に付けることができます。

近年、ボランティア活動の経験は就職・採用試験でも重視されています。志望進路を見据えたボランティア活動に積極的に取り組んでください。ボランティア活動への参加は、活動受け入れ先によって申し込みや手続きの方法が異なりますので、各自確認をしながら取り組む必要があります。なお、ボランティア活動を行う際は、ボランティア活動保険に必ず事前に参加してください（有料）。

2) 採用試験・就職活動について

※免許・資格の詳細については、「3. 取得できる免許・資格」を参照。

①教員採用試験（小学校、中学校、高等学校）

小学校、中学校、高等学校の教員になるためには、学校種に対応する免許状（小学校教諭免許状、中学校教諭免許状、高等学校教諭免許状）を取得することと、教員として採用されることが必要です。公立学校であれば都道府県や政令指定都市の教育委員会が実施する教員採用試験に合格し採用されること、私立学校であれば学校法人等が行う採用試験等に合格し採用されることが必要です。

②行政・一般企業への就職活動

公務員（行政職）になるためには、国や地方公共団体が実施する公務員試験に合格し採用されることが必要です。健康、スポーツに関連する一般企業に就職するには、健康運動実践指導者資格やジュニアスポーツ指導員資格、スポーツプログラマー資格、アシスタントマネージャー資格といった資格の取得が必ずしも求められるわけではないですが、自らの専門性を示す上でも取得しておくことが望ましいと考えられます。そのため、資格取得に向けた履修計画に沿い、学習を着実に進めていく必要があります。健康、スポーツに関連する一般企業かどうかを問わず、一般企業の選考は公務員試験や教員採用試験よりも早期に選考が始まるため、3 年次で配布される「就職の手引き」や就職サイトで、選考・採用スケジュールを確認し、実施される企業説明会への参加、筆記試験やグループディスカッション、面接等を受け、内定（内々定）をもらうことが必要です。早期からの就職サイトへの登録、インターンシップ、OB/OG 訪問等に積極的に取り組み、自己分析や業界企業研究にも取り組むことが必要です。

3) 大学院（修士課程・専門職学位課程）進学について

大学院や教職大学院に進学するためには、卒業要件を満たし卒業見込みであることと、各大学院が実施する入学試験を受験し、合格することが必要です。大学院や教職大学院へ進学することで、教育、健康、スポーツに関する専門的知識や技能をさらに深めることができます。なお、本学大学院には、教育、健康、スポーツに関連する修士課程・専門職学位課程はありませんので、他大学の大学院や教職大学院を受験する必要があります。

3. 取得できる免許・資格

1) 免許・資格及び取得要件について

本学部では所定の単位を修得し、必要な手続きを行うことで、卒業時または卒業後に取得することができる免許・資格があります。ただし、単位修得状況や成績によって、希望する免許・資格が取得できない場合もありますので注意してください。本項では、本学部の養成課程において単位を修得することで取得することができる免許・資格及び取得要件について説明します。本学部で取得することができる免許・資格の種類は、次の 8 種類となっています。取得要件は、各免許・資格によって異なります。

①中学校教諭一種免許状（保健体育）[†]

「学校教育法」に基づく普通免許状。中学校教諭（保健体育）は、国公立の中学校に勤務し、専門教科の指導を行います。また、担任を受け持ち、生徒の教育全般に携わります。

【取得要件】

- ・卒業要件を満たし、学士の学位を有すること。
- ・本学部の教職課程において、表 3-1（中学校・高等学校）に示す通り、校種ごとに定められた指定科目及び単位を全て修得すること。

②高等学校教諭一種免許状（保健体育）[†]

「学校教育法」に基づく普通免許状。高等学校教諭（保健体育）は、国公立の高等学校に勤務し、専門教科の指導を行います。また、担任を受け持ち、生徒の教育全般に携わります。

【取得要件】

- ・卒業要件を満たし、学士の学位を有すること。
- ・本学部の教職課程において、表 3-1（中学校・高等学校）に示す通り、校種ごとに定められた指定科目及び単位を全て修得すること。

③小学校教諭一種免許状[†]

「学校教育法」に基づく普通免許状。小学校教諭は、国公立の小学校に勤務し、担任を受け持つクラスを中心に国語（書写を含む。）、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語、道徳の教科指導や生活指導など児童の教育全般に携わります。

【取得要件】

- ・卒業要件を満たし、学士の学位を有すること。
- ・本学部の教職課程において、表 3-2（小学校）に示す通り、定められた指定科目及び単位を全て修得すること。

④健康運動実践指導者受験資格

公益財団法人健康・体力づくり事業財団が公認する「健康運動実践指導者資格」の取得の際に行われる認定試験の受験資格。健康運動実践指導者は、地域のスポーツチームやクラブ等において、健康の維持や向上を目指した運動計画に沿い、自ら見本を示すとともに、集団指導・助言を行います。

【取得要件】

- ・卒業要件を満たし、学士の学位を有すること。
- ・表 3-3（健康運動実践指導者）に示す通り、定められた指定科目及び単位を全て修得すること。

[†] 「教員免許状」について

中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状等、日本の学校の教員になるために必要な免許状。教員免許状がなければ、日本の学校で教壇に立ち、授業を行うことはできません。教員免許状の種類は、学校の種類や教科ごとに普通免許状（専修免許状、一種免許状、二種免許状）、特別免許状、臨時免許状があります。本学部の教職課程は、中学校及び高等学校はもちろん、小学校の普通免許状（一種免許状）取得にも対応した課程となります。

⑤スポーツ指導者資格「共通科目Ⅱコース」受験資格

公益財団法人日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者資格の取得に必要な科目には、「共通科目」と「専門科目」の2種類があります。「共通科目」については、本学で所定の科目の単位を修得し、公益財団法人日本スポーツ協会の試験に合格することで、「共通科目Ⅱコース」の修了者として登録されます。本学で開講する⑥～⑧の「専門科目コース」の受験資格には、「共通科目Ⅱコース」の修了も必要です。

【取得要件】

- ・卒業要件を満たし、学士の学位を有すること。
- ・表3-4（共通科目Ⅱ）に示す通り、定められた指定科目及び単位を全て修得すること。

⑥ジュニアスポーツ指導員受験資格

公益財団法人日本スポーツ協会が公認する「ジュニアスポーツ指導員資格」の取得の際に行われる検定試験の受験資格。ジュニアスポーツ指導員は、幼児期や少年期の子どもたちが集う地域のスポーツチームやクラブ等において、スポーツを通した身体づくり、動きづくりの指導・助言を行います。

【取得要件】

- ・卒業要件を満たし、学士の学位を有すること。
- ・表3-4（共通科目Ⅱ）及び表3-5（ジュニアスポーツ指導員）に示す通り、それぞれ定められた指定科目及び単位を全て修得すること。

⑦スポーツプログラマー受験資格

公益財団法人日本スポーツ協会が公認する「スポーツプログラマー資格」の取得の際に行われる検定試験の受験資格。スポーツプログラマーは、地域のスポーツチームやクラブ等において、健康の維持や向上を目指したトレーニングメニューを考案し、指導・助言を行います。

【取得要件】

- ・卒業要件を満たし、学士の学位を有すること。
- ・表3-4（共通科目Ⅱ）及び表3-6（スポーツプログラマー）に示す通り、それぞれ定められた指定科目及び単位を全て修得すること。

⑧アシスタントマネジャー受験資格

公益財団法人日本スポーツ協会が公認する「アシスタントマネジャー資格」の取得の際に行われる検定試験の受験資格。アシスタントマネジャーは、地域のスポーツチームやクラブ等の活動の充実を目指した運営を担うマネジャーの補佐を行います。

【取得要件】

- ・卒業要件を満たし、学士の学位を有すること。
- ・表3-4（共通科目Ⅱ）及び表3-7（アシスタントマネジャー）に示す通り、それぞれ定められた指定科目及び単位を全て修得すること。

免許・資格を取得するということは、その分野の専門家になることを意味します。免許・資格については、多くの免許・資格取得を目指すことを重視するのではなく、まずは自分の将来の進路（職業）や目指す専門性を十分に考えて、必要な免許・資格を取得していくことが重要です。

2) 免許取得のための各種実習について

①実習の種類

教員免許状を取得するには、各養成課程において定められた実習を履修・実施し、単位を修得する必要があります。

取得しようとする免許	履修・実施する必要がある実習科目名
中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育）	「介護等体験」「中等教育実習（事前事後指導含む。）」
小学校教諭一種免許状	「介護等体験」「初等教育実習（事前事後指導含む。）」

実習は、大学で基礎的な知識や技能を学修した上で、中学校や高等学校、小学校といった実際の教育現場での実践的な活動となるため、本学部では実習科目に関する履修要件を設けています。

下記②に示す要件を満たさない場合や実習参加への疑義が出された場合は、教授会において生活態度等を含め協議し、実習科目の履修を認めないことや実習を停止することがあります。なお、実習中に、児童・生徒の安全・健康等を損なうおそれのある行為があったときは、学部長の判断により、即刻実習を停止します。

各種実習の詳細（実習地、手続き方法、実習ごとに設けられている実習参加への要件等）については、実習までの事前指導や履修登録オリエンテーション等において別途指示します。また、やむを得ない事情がある場合や特別な配慮が必要な場合は、早めに実習担当の教員に申し出てください。

②各種実習科目の履修・参加要件《重要》

(1) 各免許（介護等体験を除く）に必要な科目及び単位数の表にある実習要件欄に「○」と表記された科目について、各表の末尾に示す単位修得済または履修中であることが必要な科目数を満たしていること。

- ・中等教育実習（事前事後指導含む。）に関する実習要件：表 3-1
- ・初等教育実習（事前事後指導含む。）に関する実習要件：表 3-2

(2) その他、次の要件を満たすこと。

- ・教育職に就く意志が固く、積極的に実習ができること。
- ・指定された期日までに、必要な事務手続きや諸検査等がすべて完了していること。

表3-1 中学校教諭・高等学校教諭一種免許状（保健体育）に必要な科目及び単位数

自己評価レベル			A 十分理解できた			B 理解できた			C おおむね理解できた			D あまり理解できなかった		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分				左記に対応して開設する本学の授業科目						学生用確認欄				
教職及び教科に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	授 業 科 目	単 位 数		実習要件	修得年度	評価 (点数)	自己評価					
				必修	選択									
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	2		○								
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	1		○								
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育の制度と経営	2		○								
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		○								
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育総論	2		○								
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程総論	2		○								
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳の理論および指導法	2		○								
	総合的な学習（探究）の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	2		○								
	特別活動の指導法		特別活動の指導法	1		○								
	教育の方法及び技術		教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。)	2		○								
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法													
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論	2		○								
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法													
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談の理論と方法	1		○								
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	中等教育実習（事前事後指導含む。)	5										
	教職実践演習	2	教職実践演習	2										
教科及び教科の指導法に関する専門的事項	体育実技	中28 高24	体育Ⅰ	1		○								
			体育Ⅱ	1		○								
			体育Ⅲ	1		○								
			体育Ⅳ	1		○								
			武道演習Ⅰ	1		○								
			武道演習Ⅱ	1		○								
			球技演習Ⅰ	1		○								
			球技演習Ⅱ	1		○								
			球技演習Ⅲ	1		○								
			球技演習Ⅳ	1		○								
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。)		体育原理	2		○								
			体育心理学	2		○								
			体育社会学	2		○								
			体育史	2		○								
			運動方法学	2		○								
			運動生理学	2		○								
			公衆衛生学	2		○								
			学校保健	2		○								
	生理学（運動生理学を含む。)		衛生学・公衆衛生学	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	救急看護法	2		○						
					中等保健体育科指導法Ⅰ	2		○						
中等保健体育科指導法Ⅱ		2				○								
中等保健体育科指導法Ⅲ		2				○								
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。)			中等保健体育科指導法Ⅳ	2		○								

大学が独自に設定 する科目		中4 高12	中：最低修得単位数を越えて履修した 「教科及び教科の指導法に関する科目」 又は「教育の基礎的理解に関する科目」 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科 目」「教育実践に関する科目」につい て、併せて4単位以上を修得 高：最低修得単位数を越えて履修した 「教科及び教科の指導法に関する科目」 又は「教育の基礎的理解に関する科目」 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科 目」「教育実践に関する科目」につい て、併せて12単位以上を修得						
文部科学省令で 定める科目	日本国憲法	2	日本国憲法	2					
	体 育	2	健康スポーツ	1					
			健康科学	1					
	外国語コミュニケーション	2	Basic English A	1					
			Basic English B	1					
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作	2	ITリテラシー基礎	2					
中等教育実習（中学校・高等学校）を履修するために単位修得済または履修中であることが必要な科目数						33 科目 以上			

表3-2 小学校教諭一種免許状に必要な科目及び単位数

自己評価レベル			A 十分理解できた			B 理解できた			C おおむね理解できた			D あまり理解できなかった		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分				左記に対応して開設する本学の授業科目						学生用確認欄				
教職及び教科に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	授 業 科 目	単 位 数		実習要件	修得年度	評価(点数)	自己評価					
				必修	選択									
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	2		○								
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	1		○								
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		学級経営論		1									
			教育の制度と経営	2		○								
			教育心理学	2		○								
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育総論	2		○								
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程総論	2		○								
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳の理論および指導法	2		○								
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	2		○								
	特別活動の指導法		特別活動の指導法	1		○								
	教育の方法及び技術		教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。)	2		○								
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		生徒・進路指導論	2		○								
	生徒指導の理論及び方法													
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法													
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談の理論と方法	1		○								
教育実践に関する科目	教育実習	5	初等教育実習(事前事後指導含む。)	5										
	教職実践演習	2	教職実践演習	2										
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項※注	32	国語Ⅰ(書写を含む。)		2	左記科目の中から12単位以上修得すること								
			社会Ⅰ		2									
			算数Ⅰ		2									
			理科Ⅰ		2									
			生活Ⅰ		2									
			音楽基礎理論		1									
			図画工作Ⅰ		1									
			家庭Ⅰ		2									
			体育Ⅰ		1									
			小学校英語Ⅰ		2									
			各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	国語科指導法(書写を含む。)	2		○							
	社会科指導法			2		○								
	算数科指導法			2		○								
	理科指導法			2		○								
	生活科指導法			2		○								
	音楽科指導法			2		○								
	図画工作科指導法			2		○								
	家庭科指導法			2		○								
	初等体育科指導法			2		○								
	小学校英語指導法		2		○									
大学が独自に設定する科目		2	最低修得単位数を越えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて2単位以上を修得											

文部科学省令で定める科目	日本国憲法	2	日本国憲法	2		○			
	体　育	2	健康スポーツ	1		○			
			健康科学	1		○			
	外国語コミュニケーション	2	Basic English A	1		○			
			Basic English B	1		○			
	教理、データ活用及び人工知能に関する科目又は　情報機器の操作	2	ITリテラシー基礎	2		○			
初等教育実習（小学校）を履修するために単位修得済または履修中であることが必要な科目数						26 科目 以上			

注：「教科及び教科の指導法に関する科目」の「教科に関する専門的事項」については、「国語Ⅰ（書写を含む。）」「社会Ⅰ」「算数Ⅰ」「理科Ⅰ」「生活Ⅰ」「音楽基礎理論」「図画工作Ⅰ」「家庭Ⅰ」「体育Ⅰ」「小学校英語Ⅰ」から12単位以上選択し、単位を修得すること。

表3-3 健康運動実践指導者受験資格に必要な科目及び単位数

健康運動実践指導者養成講習会カリキュラムに定める科目区分等		本学開講該当科目	単位数
科 目	各科目に含めることが必要な事項		
健康づくり施策概論	健康の概念、わが国の現状と健康づくり施策 生活習慣病とその予防、メディカルチェック	公衆衛生学	2
運動生理学	運動とエネルギー出力系 運動と筋・神経系 運動と呼吸循環系 発育・発達の概論、老化の過程と機能変化	運動生理学	2
機能解剖とバイオメカニクス	骨格、筋の構造と機能	解剖生理学	2
	バイオメカニクスの基礎と応用	バイオメカニクス	2
栄養摂取と運動	栄養学の基礎 食生活と運動、体重調節	スポーツ栄養学	2
体力測定と評価	体力測定の理論 形態及び体脂肪の測定 体力測定の実際と評価、データ処理	測定評価	2
健康づくりと運動プログラム	トレーニングの原則、健康増進のための運動効果、 身体活動指針・指針の具体例 運動プログラムの基本的考え方、目標設定 運動のプログラミング	運動方法学	2
運動指導の心理学的基礎	運動における行動変容	体育心理学	2
健康づくり運動の実際	ウォームアップとクールダウン ストレッチング	健康スポーツ	1
	ウォーキングとジョギング(1)(2)	体育Ⅳ	1
	エアロビックダンス(1)(2)(3)	体育Ⅱ	1
	水泳・水中運動(1)(2)(3)	体育Ⅲ	1
	レジスタンスエクササイズ(1)(2)(3)	健康運動実践演習	1
運動障害と予防・救急処置	内科的障害 救急蘇生法 整形外科的障害 外科的救急処置とテーピング	救急看護法	2

表3-4 スポーツ指導者資格「共通科目Ⅱコース」受験資格に必要な科目及び単位数

共通科目内容	本学開講該当科目	単位数
コーチングを理解しよう		
1. コーチングとは		
2. コーチに求められる役割		
3. コーチに求められる知識とスキル		
4. 対他者力を磨こう		
5. 対自己力を磨こう		
6. スポーツの意義と価値	運動方法学	2
7. スポーツの価値を守るスポーツ権	体育心理学	2
8. スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー	体育社会学	2
9. 暴力・ハラスメントの根絶	体育原理	2
10. スポーツのインテグリティ	体育経営管理学	2
11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任		
12. スポーツ仲裁		
13. スポーツ倫理		
14. 時代をリードするコーチング		
グッドコーチに求められる医・科学的知識		
1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系		
2. 体力のトレーニング	運動方法学	2
3. スキルトレーニング	スポーツ医学	2
4. 心のトレーニング	スポーツ栄養学	2
5. スポーツと栄養	体育心理学	2
6. スポーツに関連する医学的知識	運動生理学	2
7. アンチ・ドーピング	健康科学	1
現場・環境に応じたコーチング		
1. コーチング環境の特徴	運動方法学	2
2. ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング	体育経営管理学	2
3. スポーツ組織のマネジメント	体育社会学	2
4. 障がい者とスポーツ	体育原理	2

表3-5 ジュニアスポーツ指導員受験資格に必要な科目及び単位数

ジュニアスポーツ指導員養成講習会専門科目カリキュラムに定める科目区分等			本学開講該当科目	単位数
	講習科目	科目の内容		
理論編	概論	1. 子どもにおける運動、スポーツの意義・価値 2. 子どもを取り巻く環境、体力の現状と課題 3. 子どもの身体活動ガイドライン 4. 子どものスポーツ指導における現状と課題 5. ジュニアスポーツ指導員の役割	体育 I	1
	コーチング	1. コミュニケーションスキル 2. よい指導者としての観点 3. 指導の留意点 4. プログラム作成時のポイント 5. 安全管理上の配慮事項 6. コーチングの実践事例、ケーススタディ	運動方法学	2
	体力	1. からだ（形態）の発育・発達 2. 運動能力（機能）の発育・発達 3. 体力の測定と評価	測定評価	2
	動きの発達	1. 動きの獲得 2. 発達特性と個人差 3. 動きの質の評価 4. 指導への応用	健康科学	1
	心理	1. こころの発育 2. 子どもの心理的特徴 3. 心理的アプローチ 4. 子どものためのストレス・マネジメント	体育心理学	2
	栄養	1. 成長期における食事 2. 栄養障害 3. 水分補給	スポーツ栄養学	2
	スポーツ医学	1. からだの構造と成長発達 2. スポーツと内科的障害 3. スポーツによる外傷と障害 4. スポーツ外傷・障害予防への取り組み	スポーツ医学	2
	女性とスポーツ	1. 女性の身体的・体力的特徴 2. 女性において起こりやすい諸問題 3. 月経とコンディショニング	健康運動実践演習	1
実技編	運動遊び・スポーツ	1. 発達段階に応じた運動遊びの展開例 2. 運動遊び・スポーツの指導 3. アイスブレイク 4. 運動遊びのアレンジ 5. 年齢、体力に応じた指導	健康運動実践演習	1
実習編	指導実習	1. 指導プログラムの作成 2. 指導実践 3. 指導内容の評価	健康運動実践演習	1

表3-6 スポーツプログラマー受験資格に必要な科目及び単位数

スポーツプログラマー養成講習会専門科目カリキュラムに定める科目区分等		本学開講該当科目	単位数
講習科目	科目の内容		
I. 運動と健康	1. スポーツプログラマーの役割 2. 運動と健康	運動方法学	2
II. フィットネスプログラムの実際	1. フィットネストレーニング 1) 全身持久力・身体組織系 2) 筋力/筋持久力系 3) 柔軟性系 4) 調整力系	健康運動実践演習	1
	2. 体操系 1) 体操 2) ストレッチング	体育 I	1
	3. エアロビクス系 1) ウォーキング・ジョギング 2) エアロビクスダンス	体育 II	1
	4. レクリエーション・スポーツ系 1) 軽スポーツ 2) 運動ゲーム	健康運動実践演習	1
	5. 対象別フィットネスプログラム 1) 壮年(中年)のフィットネスプログラム 2) 高齢者のフィットネスプログラム 3) 女性のフィットネスプログラム 4) 障害者のフィットネスプログラム		
III. フィットネスと健康管理	1. フィットネスと体調 1) 体調チェックの意義と方法 2) スポーツと疲労回復(栄養と休養)	スポーツ栄養学	2
	2. フィットネスと安全 1) ウォーミングアップ 2) クーリングダウン	運動方法学	2
IV. 体力測定と評価	1. 体力測定の方法 2. 測定結果の処理 3. 体力評価とスポーツプログラム	測定評価	2
V. スポーツ相談の実際	1. スポーツ相談の意義 2. スポーツ相談の実際 1) スポーツ相談の技術 2) スポーツ相談の実習	体育心理学	2

表3-7 アシスタントマネジャー受験資格に必要な科目及び単位数

アシスタントマネジャー養成講習会専門科目カリキュラムに定める科目区分等		本学開講該当科目	単位数
講習科目	科目内容		
1. 地域スポーツクラブとは 2. 地域スポーツクラブの現状	事業の背景と理念（テキスト「はじめに」部分） 地域スポーツクラブを取り巻く環境の変化 スポーツ基本法とスポーツ基本計画 総合型地域スポーツクラブを取り巻く環境 総合型地域スポーツクラブ・マネジメントの仕組み	体育社会学 体育経営管理学	2 2
3. クラブマネジャーの役割	クラブマネジャー・アシスタントマネジャーとは クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの位置づけ クラブマネジャー・アシスタントマネジャーに求められる能力 ロジカルシンキング コミュニケーション マーケティング 経営戦略 人・組織のマネジメント能力 施設の管理と運営 ホスピタリティ スポーツクラブの安全管理（リスクマネジメント） 財務	体育経営管理学	2
4. クラブのつくり方 5. クラブの運営	クラブの創設 自主運営に必要な条件 顧客とスタッフの定義 NPO法人格の取得手続 活動拠点の確保 財源の確保 事業計画書（ビジネスプラン）の作成と評価 事例クラブ紹介（総合型地域スポーツクラブの事例を紹介する）	体育経営管理学	2